

The way is open where there is a will

～意志あるところに道は開ける～

キャリア教育部通信 第8号

令和4年9月30日

中学生の皆さんへ

キャリア教育部

2学期も1か月が経ちました。充実した日々（充実の秋）を過ごしていますか。今回も前号に続き、読書について考えてみたいと思います。読むこと・知識を得ることは、どういうことにつながっていくのでしょうか。

よく食べて、よく眠って、体力を整えて、脳を活発に動かしていきましょう！

読む力 最新スキル 大全 佐々木俊尚著 東洋経済新報社の中から、いくつか紹介します。

「はじめに」より

大学はほとんど行っていないし、新聞記者の仕事で取材や素早い原稿執筆のスキルは得たが、「知」とは無縁の半生だったと言うしかない。しかしそれでもわたしは読書が子どものころから好きだったし、今でも大好きで、ずっと「知」に強い欲望を抱き続けてきた。

だから、新聞記者を辞め、その後の短い編集者生活を経てフリーランスになってからは、ずっと自分の中で「知」を大事なものとして扱い、それを個人的に育てることを自分に課し、そして同時にそれを無上の喜びとしてきた。

そして新聞記者を辞めてフリーのジャーナリストになったその時期に、インターネットの大波がやってきた。大学の研究室や重くて高い書籍からだけでなく、ネットでたくさんの「知」が公開されるようになり、誰もが「知」の本質に到達できる時代がやってきたのである。わたしは、インターネットをフルに駆使して「読む力」や「知識」や「視点」を身につけるためのノウハウを膨大に蓄積してきた。

2011年の東日本大震災と2020年からの新型コロナウイルス・パンデミックで、「新聞やテレビだけ見ていれば大丈夫」というような古いメディアへの信頼度は、さらに消し飛んだ。インターネットには「良質な情報」がたくさんあるが、同時に陰謀論や怒りや誹謗中傷などの「おかしな情報」も大量にある。

そこからどうやって、「良質な情報」だけを集めるのか。たんに「良質な情報」を集めるだけでなく、それをきちんと読み解き、それによってこの「世界」への理解を深め、世界を曇りのない目で見つめる力を、どう養っていけばいいか。

いまこそ「読む力」が決定的に重要な時代になっているといえる。読むことで「知識」や「視点」を身につけ、最後までそれらを自分の「知肉」にしていかなければならない。

「読むこと」の大きな目的は「多様な視点」を獲得することより

何かを読むことの大きな目的のひとつは「たくさんの視点を獲得すること」と肝に銘じておくことである。何かの出来事があったとき、それについてひとつのニュースや記事だけを読んで、「知った気になる」というのが、いちばん危うい。

本当の「知る」というのは、その出来事について「たくさんの視点」を獲得し、「全方位からその出来事を見る」ということなのだ。

そもそも現実の社会では、算数の問題を解くような正解は、ほとんど期待できない。私たちにできるのは「正解はないが、様々な見方がある」という原理原則をきっちり押さえておくことである。起きている出来事や事態について「こんな見方もある」「こんな考え方もある」という「複数の視点」の存在を確認し、それらを学ぶことで、ようやく全体像が見えるようになってくる。

知に向き合う姿勢には、謙虚さがなければならない。知に向き合う謙虚さがあれば、「様々な視点」「様々な意見や見方」があることも許容できるようになる。自分の考えと異なり、対立する意見もあることに納得できるようになる。

それらに対して腹を立てたり「反知性主義だ！」と罵声を浴びせたりするのではなく、「そうか、そんな考えもあるのか」と驚きと喜びをもって向き合えるようになる。

そういう「知の人」になろうではないか。

読むことで得た「知識」「視点」を「知肉」にするのが最終目標より

血肉と同じように、「世界観」を学んで自分の血肉のようなものにしていく（この血肉を本書では「知肉」と呼ぶことにする）。これこそが、「読むこと」の最終的な目標だとわたしは考えている。

様々なものを読む → 「知識」や「視点」を獲得する → そこから「概念」をつかむ

→ 「概念」を集めて「世界観」をスケッチする

→ 「世界観」から、自分のための「知肉」を育てる

本校では2年かけて課題研究に取り組んでいます。インターネットからのコピーペーストではなく、自分の血肉となった言葉で論文を書くことが重要だと伝えていきます。自分の言葉で書き上げた論文は財産になります。その財産は大学生や社会人になって、進化させることができ、自分のため、社会のために役立てることができます。探究活動をし、論文を書く意義はここにあります。

先生や友人から助言をもらいながら、ブラッシュアップしていくことが財産（論文）の価値を高めていくのです。高校は予備校ではありません。単に進学先が決まればよいというものではありません。自分の成長の証・学んだ証として、論文を仕上げています。

総合的な学習の時間でレポートなどをまとめたり、発表したりすることがあるでしょう。中学生であった頃の自分の考えが分かるように、高校生活や将来につながるように努力してみてください。頭の中に残る財産になります。